



# ふせたつじ まえやち なび 布施辰治・前谷地から学ぶ旅

「楽しく学べたね！」の声

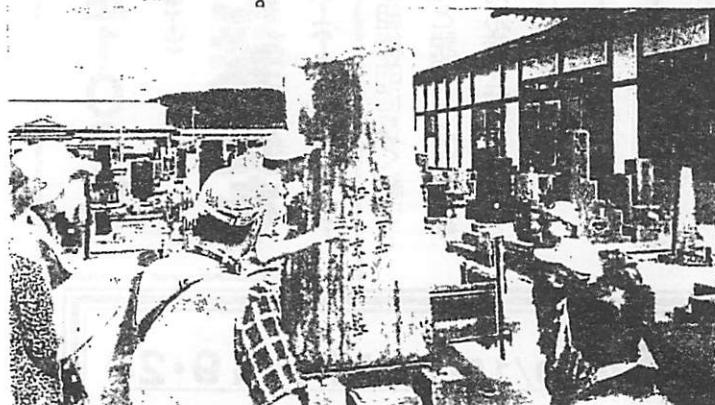


9月13日(金)、「没後71周年」布施辰治・碑前祭と講演」と、県内最大の小作争議「前谷地事件」の旅」と題する「バス小旅行」を実施しました。

「碑前祭」の日程の確定が遅れた」ともあり、チラシを仙台中心に新聞折込した程度でしたが、すぐにバス定員になり、随行車一台6名を含め、31名参加の旅となりました。

\*往きのバスでは、県本部と石巻支部の総会で講演していた年金者組合委員長の芳賀芳昭さんに、新たに作成された「資料」に基づき、「前谷地事件の説明」をして頂きました。\*バスは矢本インターを降り、河南、北村を経て前谷地・齊善屋敷へ。全国一位と言われる

大地主。庭園は国指定の記念



物。建物・屋敷は石巻市に寄付されており、管理人2名が丁寧な案内と説明。しかし、広大で豪華な屋敷の全体をめぐるには時間が足らず、「前谷地事件」の話も聞かれませんでした。

\*鹿又の光明寺、運動の指導者である「伊藤京助の碑」へ。光明寺は、伊藤京助の菩提寺であるとともに、「東北にある農場に来ていた庄司捷彦の後を引き継いだ、「布施辰治を顕彰する会の松浦健太郎会長の挨拶の後、韓国領事、県と市の代表、地元県議、仙台弁護士会会長、国賠同盟会長、布施家のご遺族などの挨拶が行われました。炎天下の碑前祭でした。

\*石巻市中央公民館に移動し、石巻市博物館学芸員・伊藤匠さんの講演会、中大卒、研究科研究員で30歳。特別展企画するなど、今後の新しいリーダーの清冽な講演でした。

\*帰りのバスでは、一人一人が自己紹介と感想などで交流。

【感想や意見は3・4ページ】

# 『前谷地事件』史跡巡り



◎小作争議の大きな事件が宮城であったことをこの史跡めぐりで知りました。語り継ぐためには、小中学校でもっと取り上げていいと思います。

◎初めての参加でした。事件のことについてはある程度知つていたが今回の企画で深めることができました。

◎地元の歴史に関心を持ち始めました。

1、「前谷地事件」史跡めぐりに対する感想・ご意見などありましたらお書きください。

◎齊善がどのような大地主だったのか良くわかった。小作者に対する経営姿勢には厳しいものであるが、単なる豊かな大

作人が野犬をけしかけられ喰われてしまうところで終わりです。「多喜」は畜生、何かが足りないものがある」と叫び階級的な闘いを開始したという私

◎石巻出身ですが、前谷地事件については全く知りません。地主と小作人の争議はまだあるのでしょうか。落着の仕方が良いのではないか。  
◎「初」と名付けなければならぬ土地、史跡、人物、事柄の連続でとても興味深く、体験させて頂きました。ありがとうございました。  
◎芳賀さんの丁寧でわかりやすい説明があり、事件について良く理解ができた。◎いつもと違った史跡めぐり、心があらわれました。

## 参加者の感想と意見



### 意見



地主だったのではなく、自分の生活は質素だつたらしく、各方面に多額の寄付をしていることは面白い。戦時に○戦を軍に寄付をしたというのは正に時代を反映していると思った。

◎小林多喜二の小説を思い出す



# 演講「布施辰治・碑前祭と講演」

講師

伊藤 匠

石巻博物館  
学芸員

演題 「布施辰治と石巻」



\* 布施辰治の功績を知り感銘をうけました。本日はありがとうございました。

\* 人権派弁護士の布施辰治を初めて知り、このバヌツアーニに参加しました。教会のメ

ッセージで布施辰治さんのこと

とを伝えたいと思います。

\* 大切なことは分かつて

\* 碑前祭は昨年に引き続き参った先人として尊敬されて

いることが良く分かった。前谷地事件と実情と布施辰治の関わりが良く分かった。

\* 石巻出身です。

2、布施辰治・碑前祭と講演について感想・ご意見などありましたらお書きください。

\* 碑前祭は昨年に引き続き

いか考えさせられました。

3、今後の要望・意見などが

\* とても勉強になりました。

ありました。お書き下さい。

\* 企画運営お疲れさまでした。\* 良い企画ありがとうございます。

\* 碑前祭で仙台弁護士会の女性会長が500人の弁護士を代表して、布施辰治の業績と人権思想を継承する決意を表明したことは、素晴らしいと思いました。松浦会長、また講師

生きして戦うのか」を自覚せらるる思いです。とりわけ、今

回は日本の情勢を考えたときの若い方が活躍されていることに死す」は強烈でした。

ました。国賠同盟の企画・行事に参加するたび「何のために長

生きして戦うのか」を自覚せらるる思いです。とりわけ、今

回は日本の情勢を考えたとき

に、希望を感じました。

じても炎天下、長々の挨拶は閉口でした。老人には酷です。\* 食事の時間はせめて一時間は欲しい。

大きいバスでしつかり冷房の利くバスで移動できればよかったです。\* スケジュールをもう少し、

\* 布施辰治・碑前祭に参加できて良かつたです。顕彰活動が行われていることに頭が下がります。有難うございました。

\* 人間としてどう生きたらよ

生の熱心さにうたれました。今後の研究

とで、希望を感じました。

\* 大切なことは分かつて

じても炎天下、長々の挨拶は閉口でした。老人には酷です。\* 食事の時間はせめて一時間は欲しい。

\* プログラムに盛り込みすぎと思つた。\* もう少し

大きいバスでしつかり冷房の利くバスで移動できればよかったです。\* スケ

ジュールをもう少し、ゆつたりしたものにしてもら

えるといいのかな。

現代に生きる宮城の戦前史に学ぶ

## 「市川正一遺体発見の経過と真実(その2)」

## 次回テーマは『50年問題』の報告と討論

「おまかせ田(木金)、1-10名の参  
加で2時から4時までサポー  
トセンターで行いました。

○前回に引き続き、「市川正一」の遺体発  
見の経過と真実は?」について

\*「朝鮮人医学生による発見」という  
証言の信ぴょう性を巡りて意見交換。

○井上學論文と本田勝利論文との違い

…………本当にどうだったのか?

・井上學氏については、メンバーが八王  
子にいる方に聞いた話では、「本人は」  
の論文を書いた直後に亡くなり、今ど  
なつては検証の仕様がない。しかし、本  
田勝利氏の論文はみた」と語っていた。  
・遠藤忠雄氏については、「私と朝鮮と  
の関わり」「東西南北・別冊O-O」によれ  
ば、「名は失念」したが、「ある日、東北大  
医学部の朝鮮人学生」が訪ねて来て、  
「五人一組で一遺体を長い期間かけて  
解剖」しているが、「日本共産党の指導  
して金く奪つておる。つまり、記述と証言  
は違つておる。従つて、「市川正一」の遺体  
が朝鮮人学生に「発見された」という記  
述を「犠牲者集」にいれるのか? 遠藤  
氏の不確かな情報は入れない。

○「死亡通知、遺体の病院搬送」につ  
いての連絡はあった。【「アカハタ」座  
談会】「市川正一の思い出」より

・四五年の三月十五日に市川正一が死  
亡した直後に親族へ死亡の通知があつ  
て、その情報を長弟の市川義男は同月  
十八日「JRN」に受けっていたこと。遺族か  
らは返信があり、その内容は「直ぐには  
遺体を引き取りにいけないので、遺骨  
にしておこう」というものだった。

・返信に「対する措置」として、刑務所側は遺体  
を東北大医学部に

して、たなべて漁族への連絡はあったのか。二日未明三時半三義男が仙台に到着して、その痕跡で遺体の存在を確認し、その廻りの人にかり調査をし解明したのか。

\*市川庄一の遺留品が遺族のもとに何も戻らなかったので調査して欲しいことに要請があつた。これによつて答えたのが、形務所訪問の際に遺留品の行方は問題にならなかつたのか。

○遺体の引き取りまでの状況は今後とも探求して、より明確な全体像を明らかにする必要がある。

\*\*\*\*\*

◎次回は、一〇月八日(四)、二時から4時、サポーティングカードを行います。戦後の「50年問題」などについて「浜舟撤収の報告」を吸いこみ、詳細に語ります。みなつまつた。是非ご参加ください。(文責 村主・由美)

者市川正一「なぜかと聞いた」JISを規格化していった。

おどろいて見つめた。

経過は、遠藤氏の語りによる「発見」の話 \*解剖が終わってから刑務所側が約束したのは、「7人」という人数などを含め していいたように遺族への連絡はあった

9月27日(金)、10名の参  
加で2時から4時までサポー

経過は、遠藤氏の語つてゐる「祭祝」の講  
ことば、「一人」と二つ人などとを併せ  
て全く舞つてゐる。つまり、祝祭と祝詞  
は舞つてゐる。従つて、「市三正」の演体

\*解剖が終わってから刑務所側が約束していたように遺族への連絡はあったのか。=四五五年三月に市川義男が仙台にきてついでに活動で遺体の存在を確

\*「朝鮮人医師王士」による説明)」について、「[...]通印、資本の病院報送 [...]」見の経過と真実は?」について  
○副回】話題編者、「市川正」の遺体発見を「犠牲者集」にされるのか? 遠藤氏の不確かな情報は入れない。

\*市川正一の演説録が遺

証言の信ぴょう性を巡って意見交換。  
○井上學論文と本田勝利論文との関係  
この連絡はあった。「アカハタ」座談会ー「市三庄」の思ひ出よつ

このド麗海して盗つて  
の歎讃があった。」

・井上學氏については、メンバーが八王 亡った直後に親族へ死亡の通知があつた。

う答えたのか、刑務所訪問の祭に遺留品の行方は問題にならなかつたのか。

の論文を書いた直後に亡くなり、今と十八世紀の間にかけていたこと。遺族がなつては検証の仕様がない。しかし、本 *心の歴史*があり、その内容は「直死」<sup>11</sup>+

も探求して、より明確な全体像を明かにすべき必要がある。

田舎町の誰もがいた」と聞いていた。遺体を引き取りに立たないのも、遺聞・遠藤忠雄出したことで、「私と親類と一緒に死んだ」といふやうだつた。

◎次回は、10月28日(火)、2時から

ば、「名は失念」したが「ある日、東北大して、刑務所側は遺体

戦後の「50年問題」などにこじて「送り出され、このままでは生き残れない」と思っている者たち

「五人一組で一遺体を長い期間かけて解剖」しているが、「日本共産党の指導送つて解剖のうえ、遺骨に付ける」とを定めていた。この時点で、遺族は遺体が

論す限りとなりました。是非ご参考ください。

渡部八郎さんの10年超の調査・編集……60名による監修・補足・編集

犠牲者・400名、約300ページ

# 治安維持法で弾圧された宮城の人々

## 『すいせんの言葉』より



「…時の権力者の人間観や戦争観によって、特に若い世代の人生が左右される怖さを、当記録は教えてます。学校の教科書では学び得難い史実が記されています。政府による学問・研究への対応問題をはじめ、現在の社会動向を理解し、人権・平和を守る上で、歴史的に貴重な財産として活用をお勧めします。」【尚絅女学院名誉教授 野呂 アイ】

連絡先

〒980-0022 仙台市青葉区五橋 1-5-13 県労連会館 3F(国救気付)

治安維持法賠償同盟・宮城県本部 \*FAX 022-222-6450

\*直接電話の場合 090-8259-0665(横田有史)

■ 定200部出版、販価・3000円  
いよいよ完成!!

松川事件の最高裁での無罪確定  
から60年の記念集会が、昨年盛大に行われましたが、今年は無罪確定60年の記念集会が昨年盛大に行われましたが、今年は無罪確定60年に当たり、9月14・15日に記念集会が行われました私の人生を決して忘れないで下さい。この事件は大変な闘いにより、20人の被告の完全無罪、国賠訴訟で権力による全てのつぶ上げであったことも明らかになり、昭和天皇の「御謁記」にも「GHQはこれを共産党のせいにしたと法務大

臣に聞いた」と記されているほど

の事件でした。私は、大勢の津々浦々からのかた東京一仙台間を公正な裁判を求める大規模な行動まで行われた見事な大運動であったことは歴史に残る快挙で、20人の無罪を勝ち取った裁判闘争の金字塔であり、裁判への国民運動の重要性を示していると思います。同時に思うことは、当時GHQがこうしたでつち上げまでやつて日本を支配しようとした意図は、今日も脈々と続いている、「松川は終わっていない」の感を強く抱きます。松川闘争に学んで、新しい政治を打ち立てる大運動を起こしたいものです。



松川の塔

松川勝利の記念碑。「二度と松川をくりかえさせないために」無罪確定の翌年1964年9月12日に建立された。塔の高さ、12.5m。

いよいよ→→→

朗報！

# 9月には出版される予定です。

【資料】

【犠牲者 298 名(裏面掲載) 約 300 ページ】

宮城で治安維持法違反などによって検挙や起訴された人たち

—『特高月報』(『特高外事月報』)などに見る、昭和の思想・信仰弾圧時代—

\* 治安維持法による残酷な弾圧で、戦争の道を突き進んだ戦前！

「天皇制から國民主権へ」や「他国への侵略戦争反対」を主張した、共産主義者はもとより、自由主義者・知識人・宗教者・植民地の人々まで、「治安維持法」をてこに逮捕・拷問・虐殺し、すべての国民を悲惨な戦争の道に飲み込んでいった戦前。同じドイツなどとは異なり、日本の政府は今日に至るも、これらの人々に対して何らの謝罪も賠償も行っていません。

\* 全国各地で作成されてきた、「犠牲者の方々」の名簿とその実情！

全国の多くの都道府県では、こうした「犠牲者の皆さん」の名簿とその状況を調査し、記録誌として発刊されております。宮城県でも、救援会運動・国賠運動を推進してきた小田島森良さんをはじめ、多くの方々が、機関紙「不屈」に犠牲者の方々の“あゆみ”を掲載するとともに、「犠牲者名簿」を作製する努力を重ねてきましたが、結局、叶いませんでした。

\* 渡部八郎さんが 10 年かけて、「特高月報」の“抜粋・編成”を完成！

泉区在住の渡部八郎さんが、教員退職後に 10 年をかけて「特高月報」を調査・編成し、さらに「不屈」合本なども参考にして、表題の資料集(約 300 頁)を自費製作し、昨年、私ども国賠同盟にも贈呈していただきました。この極めて重厚な「労作」を是非とも製本化すべく、亡くなる直前の本田勝利さんに「検証・加筆」して頂き、今年の 4 月には県内 50 名の方々に「編集・作成委員」をお願いし、現在、「修正・加筆」の労を執って頂いております。

\* 10 月をめどに発刊予定です。是非ご購入(3,000 円予定)の予約を！

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟・宮城県本部(022-222-6458, F022-222-6450)  
〒980-0022 仙台市青葉区五橋 1-5-13 県労連会館 3F 国民救援会賛付

<キリトリ線>

『みやぎの治安維持法犠牲者の方々の資料本』について

完成したら、購入を希望いたします。

2024 年 \_\_\_ 月 \_\_\_ 日

氏名【

】 市町村【

】 電話【

## 宮城で治安維持法などによって検挙や起訴された人たち

## —『特高月報』(『特高外事月報』)などに見る、昭和の思想・信仰弾圧時代—

(昭和3年3月・4月・5月・9月・11月・12月)

(昭和4年3月・4月・11月、昭和5年2月)

(昭和五年三月分～昭和十九年十一月分)

(昭和19年12月～昭和24年12月)

松本糸、堀川辰夫、根本幹夫、赤津益造、野下勝之助、門屋博、多田基一、高橋八郎、野副重勝、飯村□□、木村幸治、石川長作、荒井一、油井修治、矢沢□□、矢後利明、我妻万藏、篠原源吉、大友庵、高橋八郎、車田辰藏、渡辺猛、菅原嘉之榮、伊藤梅治、佐々木慶太郎、管野清勝、佐々木長五郎、兼部傳、吉本三代治、今野甚太郎、脇山□□、鈴木勝右衛門、伊藤ゆき、行方□□、益子□□、木村寅吉、佐藤利雄、菊地□□、成田喜壽、佐藤時治、佐竹玉治、小林陽之助、丹野繁、小川登一、近藤省吾、伊藤ゆき、佐藤貞代、片平徳松、今野甚太郎、田口明、村松□□、多田基一、多田みどり、野副重勝、小川登一、猪股勇次郎、門屋博、荒井一、袖井開、坂猶興、八島庄六、伊藤まき子、山形□□、根本□□、金□□、小山マサ子、吉本□□、鶴谷□□、橋本節治、瀧田四郎、斎藤美智子、志賀信一、大里文祐、前田秀雄、原進、上山良治、小暮藤三、河田英一、村上良太郎、宮田金男、井上榮、村松文藏、砂澤喜一郎、遠藤義光、小池忠雄、井上若翰、蛸八郎右衛門、谷正明、五島芳夫、三宅寅三、神尾四郎、広谷俊二、斎藤昌、篠原源吉、沖一子、森次郎、佐伯眞雄、塙榮太郎、榎幸造、石川平八郎、富澤輝千代、寺島彥治、佐々木達夫、日野五郎、渡辺正彦、武藤峻、佐藤利雄、新妻すぎ、田中敏子、服部鼎、鈴木博、橋本節治、香高宇一、大友つる子、越後武雄、菊地七郎、小林平吉、川原清秀、恒任彌二郎、大島正隆、佐藤正雄、前田秀雄、瀧田四郎、宮島豊、加藤學、竹中研、氏家芳治、草刈ちよ、砂澤喜一郎、首藤直一郎、牧幸友、田村眞作、新妻すぎ、太田武雄、奥村政夫、武山貞一、井上若翰、門平謙三、伊藤ことじ、山内直美、栗原百壽、大沼孝志、長谷部豊治、香川文雄、武井昌一、清信重、森文夫、金矢俊男、内崎良雄、五島芳夫、眞野正毅、岩間幹男、佐藤敏也、高橋實、伊藤健作、阿部正、小林六郎、友常武雄、千葉幸雄、黒川利雄、鈴木善藏、今野善三郎、關巖、鹿股まさ、大沼直志、高木健次郎、村田重高、内山秋人、鈴木保、佐藤榮藏、佐藤金藏、原田正雄、菅原恂一、懸田克躬、篠原源吉、田村忠夫、渡邊幸次郎、坂猶興、武山貞一、高橋とみ、阿部和子、加藤宗太郎、山内二郎、佐藤信義、櫻井誠、榎幸造、長野久治、佐藤善四郎、佐藤廣臣、鈴木常雄、中鉢玄策、庄司清幸、杉はま子、大本むら子、杉森二郎、佐々木彌左エ門、木村太郎、熊谷次郎、島崎榮一、木村泰久、中村末吉、山村薰一、茨木薰、富樫芳雄、高田富之、米倉策郎、宇野弘藏、佐々木新助、鮎橋虎万三、河合徹、栗原百壽、五島芳夫、斎藤昌、中込武雄、三澤健吾、遠山景弘、梅津治三郎、田中正己、齊藤晴造、大島清、大友知、内藤知周、福原俊雄、佐藤新助、宇佐美清、長谷川六朗、櫻井内蔵之助、山田多佐、平塚きくよ、笛與市、唐牛僚三郎、山田民政、石井治三、村田操、村田芳助、石井松枝、村田ゑん、木村たま、鴨井正雄、大黒源吉、氏家芳治、李應雨、石森門之助、鈴木銀一、佐々木正、鈴木席雄、佐々木基幸、尾崎都司也、河合徹、山崎道雄、梶川重光、管野芳治、五十嵐勝治、鎌田孝、小岩直壽、鹿野二郎、細野徳子、細倉とく子、吳彰根、黃彩淵、閔泰崑、朴鎬俊、李建鎬、李榮祚、金太喆、金應壽、羅充浩、金吉煥、李永來、李昌烈、後藤嘉七、高幣計也、野引勇、宮川寅、川崎七瀬、芦田英夫、佐久間一郎、藤本幸夫、津田賀忠夫、佐藤樟太郎、佐藤正、中島代作、佐藤源三郎、須永重光、服部英太郎、高橋實、大島藤太郎、田路周一、松井三治、渡部牧、綿谷赳夫、三宅定夫、柴田榮治、天達忠雄、池田齊、吉田寛一、東榮滋、佐藤金藏

# 高橋とみ子没後90年・こころざしをいまに

## 高橋とみ子偲ぶつどい

2024年 11月24日(日) 13:30~15:30  
『秀林寺』

1. 高橋とみ子・墓前祭 13:30~  
秀林寺・高橋家墓前  
住所:仙台市青葉区北山1丁目-3-1  
「高橋とみ子」について  
参加者全員の焼香と記念撮影
2. 高橋とみ子偲ぶつどい 14:00~  
秀林寺 講堂  
【記念講演】  
演題 『高橋とみ子没後90年・こころざしをいまに』  
講師 元宮城県議会議員、国賠同盟県副会長  
遠藤いく子さん
3. みんなの話し合い
4. 閉会 15:30

高橋とみ子さんは仙台市で生まれ、一高女を経て尚絅文学校高等科で学び、卒業後、日本労働組合全国協議会の組織再建を目指して活動。平和と民主主義、労働運動に命をかけました。治安維持法による最大の被害者は正義感にあられ、侵略戦争反対、自由と民主主義の実現のために青春を捧げた多くの前途ある若者たちでした。

その中の一人高橋とみ子さんは、1934年、10月20日自宅で検挙された。とみ子さんは中新田警察署に移送され、黙秘を貫きましたが、一ヶ月後拷問の末、殺されました。今、とみ子さんを偲ぶことは戦前の暗黒社会に戻らない一歩にしましょう。

治安維持法の犠牲になつた 高橋とみ子  
「不屈の青春」

主催 治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟仙台支部

仙台市青葉区五橋1丁目-5-13 県労連会館3F 国民救援会賛同 TEL 022-222-6458

**秀林寺** 仙台市青葉区北山1丁目3-1

JR 仙山線 北山駅出口 徒歩約 11 分／JR 仙山線・地下鉄 北仙台駅南 1 出口 徒歩約 12 分

